

※学校評価から見た学校経営の重点と努力内容 (524名/561名)

○温かみのある学級づくり

(6)学校に行くのは楽しいと思うC+D 7.1P 37名 → A+B100%を目指す

(11)いじめられたり、無視されることなく安心して活動できているC+D 2.1P 11名 → 0名を目指す

○満足感のある授業

(2)授業はわかりやすいと思うC+D 6.7P 35名 → 授業改善を進める

(3)授業では、自分の考えを持つことができたC+D 7.3P 38名 → 授業改善を進める

(4)授業では、北星トークなどで自分で考えたことやわかったことを表現することができている

C+D 12P 63名 → 授業改善を進める

○心と体の教育の推進

(7)学校や学年の行事に関心を持ち、進んで取り組んでいるA+B 92.2P 483名 → A+B100%を目指す

(8)生徒会・委員会活動に関心を持ち、進んで取り組んでいるA+B 79.1P 412名 → A+B100%を目指す

(15)さわやかな挨拶ができるA+B 92.6P 485名 → A+B100%を目指す

項目	<分析> ○成果、▲課題	<改善策> □後期(継続・改善)、■来年(発展・変更)
温かみのある学級づくり	○ 「学校に行くのは楽しい」という肯定的な回答が92.9%であった。	□ 常にアンテナを高くして生徒の状況把握、情報共有、相談、即時対応する。「楽しくない」生徒に寄り添って状況改善を目指す。 ■ 職員は授業以外でも様々な場面を捉えて関わり、他学年の教員、部活の顧問など情報を共有していく。Q Uの結果も活用したい。
	○ 「いじめられたり、無視されたりすることなく安心して活動できる」では、97.5%が、肯定的な回答をしている。また、「自分の周りにいじめやからかいがあったときには、どのように(誰に)知らせればよいか知っている」では、91.2%が、肯定的な回答をしている。	□ 低い数値ではないが、R6前期より微減しているため気を引き締め生徒の様子をみていく。 ■ 北星タイムや北星トークを活用しながら、お互いを認め、温かい雰囲気の中で学校生活が送れるような学年集団を作っていく。
	○ 教員の学校教育アンケート「気になることを話す機会を持つように努めている。」では、肯定的な回答が85.1%であった。	□ 機会を逃さず、生徒とのコミュニケーションを積極的にとっていく。 ■ 教職員が生徒達と関われる時間を捻出するために、各分掌からのアイデアをもらうなどして行事の精選等を今後も進めていく。
	▲ 生徒アンケート「自分の周りにいじめやからかいがあったときは、どのように(誰に)知らせればよいか知っている」について、A+B評価は低い数値ではないが、C+D評価が8.8ポイント(人数では46名)となっている。昨年度も同様の課題が挙げられたため、アンケートの度に対応について担任から説明し、アンケートの裏面に記載も行っていたが、改善が見られない。	■ いじめアンケート実施時に、対応について記載と説明は今後も続けていく。くり返し伝え続けることと、日頃からの生徒とのコミュニケーションを大切にし、異変や困りごとに気づいたり、生徒にとって必要な時に物理的にも精神的にも近い距離でいられるように心がける。
満足感のある授業	○ 「授業がわかりやすいと思う」では、93.3%が、肯定的な回答をしているが、学年によって差がある。	□ 協働的な学びと個別最適な学びの両方をバランスよく取り入れ、「わかる」場面を増やしていく。
	○ 学校教育活動についてのアンケート「授業では、自分の考えを持つことができた」は、生徒の肯定的な意見が86.5%→92.8%と増加している。職員の「生徒に自分の考えを持たせる工夫をしている」の「よくあてはまる」34.8%→48.1%と増加している。	□ 1学期の授業改善に生徒、職員ともに一定の成果が見られる。今後も各教科部会の充実を意識した取り組みを行っていく。
	○ 「授業では、北星トークなどで自分で考えたことやわかったことを表現することができている」は、生徒の肯定的な意見が77.9%→88.0%と増加している。教員の「北星トークなどを通し、自分の考え方やわかったことなどを表現させている」は22.7%→40.7%とどちらも増加している。	□ 伝えたくなる課題の設定や生徒がより深い学びに向かうきっかけ等を工夫していきたい。また、教科による差や学年・学級による差も見られるので、授業相互参観週間や各教科の実践共有などを通して学校全体での取り組みも意識していきたい。
	▲ 学校教育活動についてのアンケート「意欲的に授業に参加している」は、生徒の肯定的な意見が93.9%→92.9%と変わらず高い結果になっている。しかし、「よくあてはまる」は42.6%→39.1%と少し減少している。	■ すべての生徒の「わかった」という思いや資質・能力の育成につなげるために、子供主体の授業をより意識し授業改善に取り組んでいく。夏期の校内研修で学んだことを2学期から実践し、教科部会等で共有することで検証・改善を繰り返していく。
心と体の教育の推進	▲ 「学校行事に関心」では「よくあてはまる」「あてはまる」合わせて92.2%だった。R6後期の94.1%より減少した。また、「生徒会・委員会活動に関心」では「よくあてはまる」「あてはまる」合わせて79.1%だったが、R6後期81.2%より2.1%減であった。	□ 生徒一人一人が北星中学校の一員として、生徒会を担っていく自覚をもてるよう特別活動部と連携し、みんなで行事に取り組むよう働きかけたい。
	○ 「さわやかな挨拶ができる」に対して「よくあてはまる」44.3%、「あてはまる」48.3%をあわせて92.6%となった。R6後期の92.1%とあまり変化はない。	□ 今後も生徒参加のあいさつ運動などの取組を継続して行い、「さわやかな挨拶」を意識させるとともに、教師も自ら「さわやかな挨拶」を心がける。
	▲ 生徒の授業についてのアンケート「道徳の授業では自分の考えをもち、伝え合うことができる」は、肯定的な意見が93.4%→94.3%と変わらず高い結果になっている。しかし、学校教育活動についてのアンケート「道徳の授業で生徒に自分の考えを持たせ、伝え合う場を設定するよう努めている」は、職員の「よくあてはまる」が57.1%→37.5%と減少している。	■ 学年の中で職員同士が授業づくりや教材について互いに情報を共有する。また、10月に予定している校内研修会では学年ごとの段階を踏んだ学びについて理解を深め、学年等で授業づくりを行う雰囲気づくりにつなげる。
	▲ 学校教育活動についてのアンケート「家庭学習の習慣が身についてきている」は、生徒の肯定的な意見が78.6%→79.5%と概ね横ばいとなっている。しかし、「あてはまらない」は2.2%→3.4%と少し増加している。また、2年生徒の否定的な意見が25.5%→27.5%と少し増加している。	■ 家庭学習に継続して取り組むことができている生徒と、そうでない生徒との差が大きくなっている傾向が見られる。家庭学習の習慣や自ら学習に向かう姿勢を身につけられるよう、生徒一人ひとりに合わせた支援(内容の助言や他の生徒の取り組みの紹介等)や、学年の実態に合わせた家庭学習パワーアップキャンペーングの取り組みを行っていく。
心と体の教育の推進	▲ 「日頃から安全に登下校ができるよう努めている」生徒のC+D評価が1.0ポイントなのに対して、保護者は1.1・1.0ポイントと開きが大きい。生徒自身の自覚の無さが、地域からのご意見がなくならない原因のひとつだと考えられる。	■ 引き継ぎ、様々なアプローチで交通マナーの啓発、指導を行っていく。具体的には個別指導、学年集会、全校集会、放送、学校だより、生徒指導だよりの活用を行っていく。